ATS 2021 1304 豊橋技術科学大学 高専連携教育連携プロジェクト

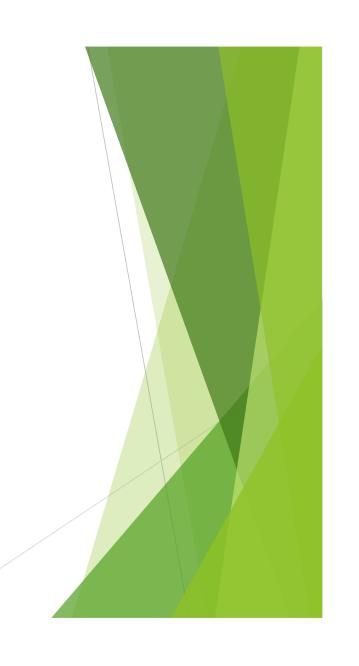
KEG上におけるS+の実装

量子トポロジーの量子計算への応用と世界トップの軌道解析

茨城工業高等専門学校 4年生 山田海音

目次

- ▶本研究の位置づけと応用例
- ▶今回の目標
- ▶結び目とは
- ▶ 結び目オイラーグラフ(KEG)とは
- ▶ KEGの同値判定
- ▶ S+とは
- ▶ KEGにおけるS+の実装
- ▶計算量の比較



本研究の位置づけと 応用例1:量子誤り訂正

目的:量子計算におけるエラー検出(量子誤り訂正)の性能評価

量子計算を安全かつ正確に行うには必須の量子誤り訂正という手法があり、その性能の評価を数学的な方面からできるようにしたい。

→「結び目のクロスキャップ数」というものを用いて計算できる

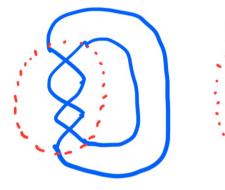
応用例2:粒子の軌道解析

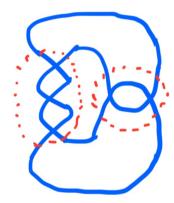
目的:空間内の粒子の軌道解析

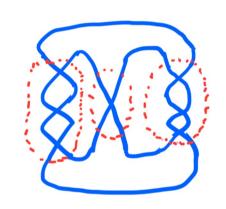
空間を移動する粒子の軌道は紐と対応しているため、結び目のクロスキャップ数を計算することで粒子の軌道が計算できる。医療工学、材料工学など他分野に応用できる。

→複雑な軌道を高速に計算するためにクロスキャップ数を求める。

クロスキャップ数とは







結び目のツイスト(赤丸の部分)の数とほぼ対応している。 今回の目的は「あるクロスキャップ数の結び目の列挙」

これまでの活動

- ・結び目の同値判定に関する論文を「JP Journal of Geometry and Topology」に投稿(2021年11月に査読付き国際誌に出版)
- 高専機構からのプレスリリース
- ・ 高専機構 理事長賞(対象は51高専の全高専生)を受賞

記録の更新

現在の世界記録:クロスキャップ数 3までの列挙 今回のアルゴリズムでは1秒でクロスキャップ数 10⁵までの 列挙が可能

計算リソースがあれば10^6~10^7まではリスト化が可能

→世界記録の大幅な更新が可能



今回の目標

クロスキャップ数を求める(格段に)効率の良いアルゴリズム の提案と実装



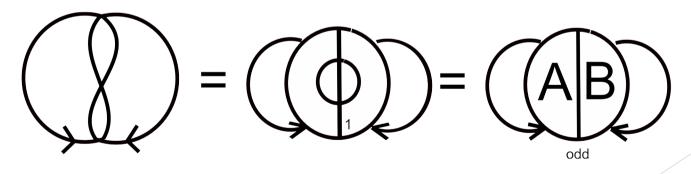
結び目とは

- ▶ 3次元空間に埋め込まれた円周(閉じた紐)のこと
- ► 結び目は無限個あり、どれくらいの複雑さであるかを調べる指標の一つが結び目を境界とする曲面であり、100年ほど前から研究されてきた
- ► この曲面が最大のオイラー数を持つ時、1からオイラー数 を引いたものをクロスキャップ数という。クロスキャップ 数の決定は未解決問題
- ▶トポロジカル量子符号など量子計算への応用が期待されている

結び目オイラーグラフとは

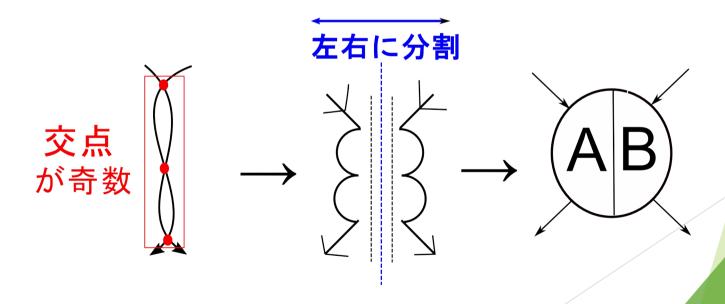
目的:結び目をデータ構造として定義し、プログラム上で操作できるようにする。

→ツイストを頂点に変換したグラフとして表現

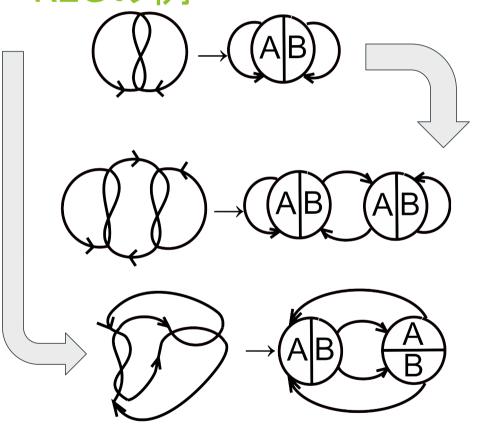


結び目オイラーグラフとは

このようなグラフをKnot Eulerian Graph(KEG)として定義。 いうなれば「2頂点を一つにまとめた特殊なグラフ」

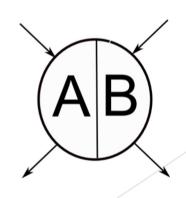


Knot -> KEGの例



KEGの同値判定

各頂点について、ラベル(A/B)が逆になっていたり、頂点番号(データ構造としての表現の際必要になる。整数。)が違っていても、グラフとしての同値性を判定できるアルゴリズムを考案した。



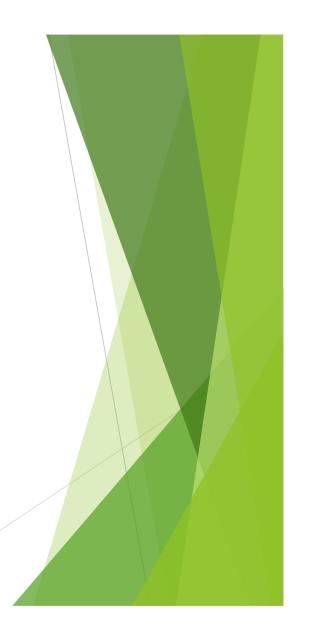
※理論や実装については前出の論文 (https://arxiv.org/pdf/2105.14453.pdf)やGitHubリポジトリを参考

同値判定の計算量改善

N: クロスキャップ数 として、 O(N*N!*2^N)→O(N^2)に改善

現在の最高記録の13交点は6頂点以下なので、計算回数が 276480→36に改善される。(約8000倍の高速化)

アルゴリズムの改善がわかりやすいのはNが大きいとき →N=10^8(100万)などを見るとわかりやすい

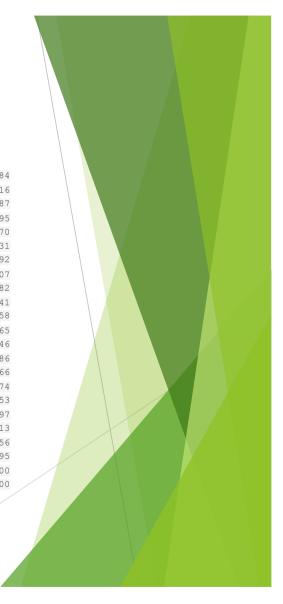


同値判定の計算量改善

N=1000(1000頂点)の時愚直なアルゴリズムだと

690764085259104328061609902308483509922978514818142151500345298205243437991667046660093368330362906675206263668864632265

回の計算が必要。改善後は1000000回。

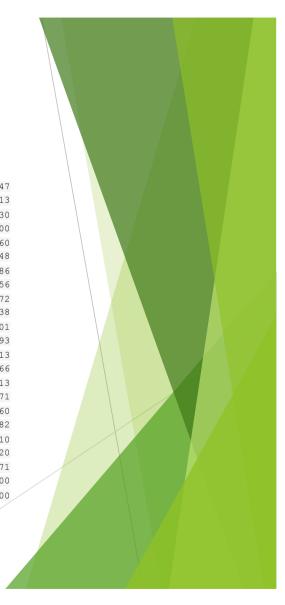


同値判定の計算量改善

計算時間で比較してみると、富嶽(スパコン)で計算してみると

136720387048041938995599776782647536574131052414379187753828741830233384770134053195658844268950931639628751561119976847 366518885871728296612888029611404898900744620445995881037302148086405923244701999314672373842843006064406992454126858113

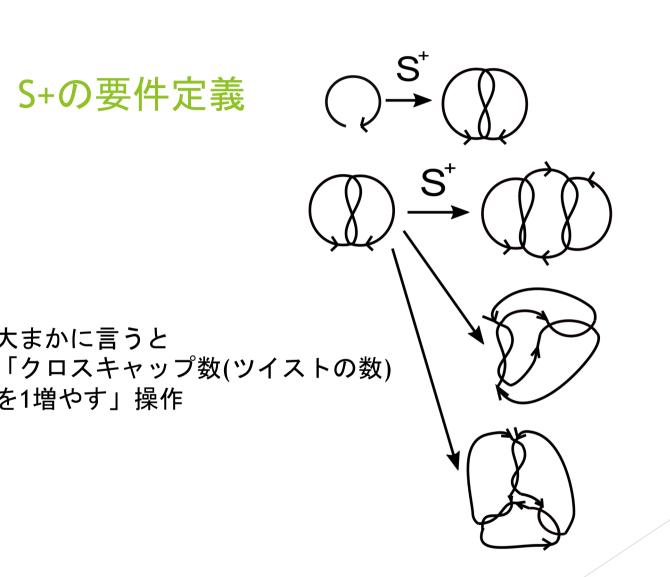
年かかる。(当然終わらない)。改善後は0.000001秒





大まかに言うと

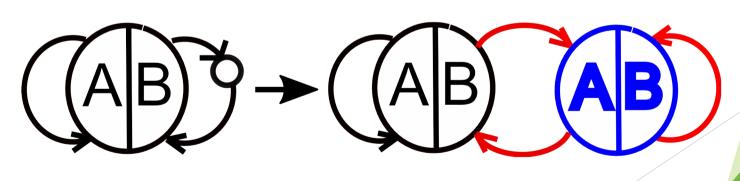
を1増やす」操作



S+の実装

大まかな説明

- 1. 対象となる2辺を選ぶ
- 2. Odd頂点を追加する
- 3. Oddに対して辺を繋ぐ
- 4. 2辺の間の辺を反転させる



S+の実装

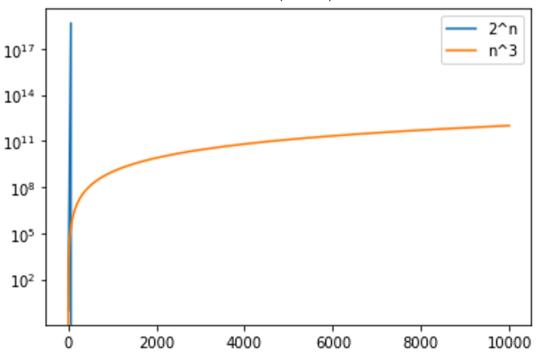
厳密なアルゴリズム

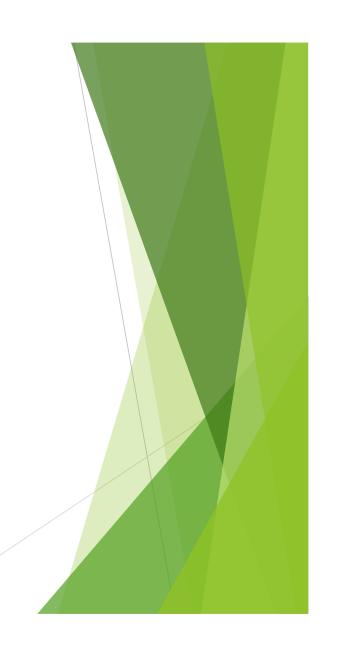
- 1. オイラー閉路を辺のリストで持つ
- 2. オイラー閉路から始辺e_s(a, b, Ta, Tb)と、終辺e_g(c, d, Tc, Td)を選ぶ(この時e_s<e_gとなるようにする)
- 3. Odd頂点Oを追加する。
- 4. a, bからOに、Oからc, dに繋がるように辺を追加する。この時aとd, bとcがそれぞれOの同じ側(A/B)に繋がるようにする。即ち、(a, O, Ta, A), (b, O, Tb, B), (O, c, B, Tc), (O, d, A, Td)の4辺を追加する。
- 5. オイラー閉路でe_sとe_gの間にある辺全てを逆向きにした辺を追加する。即ち、(u, v, Tu, Tv)を(v, u, Tv, Tu)にする。
- 6. e_sからe_gまでの辺を削除する

S+の計算量の比較

従来の計算量: O(2^N)

今回の実装の計算量: O(N³)





S+の計算量の比較

すべての結び目の列挙の現在の世界記録は3頂点(ツイスト)

従来の方式では102頂点の時の富嶽(10¹³step/s)での実行時間は200億年 (宇宙の年齢は137億年)

→今回提案するアルゴリズムでは0.000001秒

今回のアルゴリズムならノートパソコンで実行しても1秒で終了 富嶽を使う場合、100000頂点までは数秒で終了

まとめ

- ▶ 結び目という多分野に応用できる数学分野がある
- ▶ 量子計算・医療工学・材料工学などに対する応用が期待されている
- ▶ KEGに対する新たなアルゴリズムを考案している
- ▶ 計算量が大幅に改善している(宇宙の寿命よりも長い実行時間 →1秒未満)

謝辞

本研究は以下の機関・プロジェクトのご協力の下成り立っています

- 豊橋技術科学大学 高専連携教育プロジェクト(1304)
- 茨城工業高等専門学校 同窓会

以上の皆様には多大なご協力を頂きました この場を借りて深くお礼申し上げます

プロジェクトメンバー

- · 豊橋技術科学大学 鈴木幸太郎
- ・理化学研究所 吉田純
- 茨城工業高等専門学校

安細勉

伊藤昇

奥出真理子

矢作優樹

山中稜斗

山田海音



補足:S+の要件定義

目的:結び目射影図に対するS+という操作をKEGに対する「厳密なアルゴリズムとして」再定義する。

S+:交点(グラフの言葉では4価頂点)を向きに沿って平滑化する方法をSeifert spliceとし、そうでない平滑化をS-と呼ぶ、S+はS-の反対操作として定義する

RI+は何回やっても良い